



静岡英和学院大学・静岡英和学院大学短期大学部

2025年度 公開講座

(静岡市葵生涯学習センター共催講座)

受講料 無料！



【会場】 静岡市葵生涯学習センター アイセル21 3階 31集会室

【申込方法】 往復ハガキまたはホームページからお申し込みください。

住所：〒420-0865 静岡市葵区東草深町3番18号

電話：静岡市葵生涯学習センター (054-246-6191)

HP：<https://sgc.shizuokacity.jp/>

※申込には講座申込ページの無料会員登録が必要です。

※各講座の申込は裏面の二次元コードをご利用ください。

↑会員登録はこちら



【申込期間】 各回の締切りについては裏面をご覧ください。(各回定員30名)

定員に空きがある場合は、申込締切翌日13時より追加申込受付。

【問合せ先】 静岡英和学院大学・静岡英和学院大学短期大学部

企画部連携課 054-262-0091 presi-room@shizuoka-eiwa.ac.jp



英和公式キャラクター かえでちゃん

第1回 10/9(木)

18:30~20:00

申込期限: 9/25(木)必着



人間社会学部
人間社会学科
教授

毛利 康秀

絵葉書を愉しむ

—メディアとしての絵葉書の歴史的役割—

絵葉書は、画像に私信を添えて伝達することができるメディアであり、今日の写真付き電子メール（写メール）の起源とも言える機能を備えていました。20世紀前半には世界的な収集ブームとなって「絵葉書の黄金時代」が出現しました。今回は、メディアとしての絵葉書に注目し、その歴史と魅力を紹介していきます。

第2回 10/23(木)

18:30~20:00

申込期限: 10/9(木)必着



短期大学部
食物栄養学科
准教授

寺嶋 康正

二つの大震災

—地震の専門家ではない人が体験した—

近年日本で地震が多発しています。間違いなく起こるといわれているのが、南海トラフ巨大地震です。阪神淡路大震災と東日本大震災を体験した管理栄養士のお話になります。一般の人が聞いて、役立つ内容にするつもりです。現場経験20年以上の管理栄養士ですから、食に関係するお話も少しだけ…

第3回 11/7(金)

18:30~20:00

申込期限: 10/17(金)必着



人間社会学部
コミュニティ福祉学科
講師

呉羽 かおる

ボランティア論

—人はなぜボランティア活動を行うのか—

ボランティア活動は、1995年の阪神・淡路大震災を契機に災害支援、地域づくり、支援が必要な方のサポートなど、多様化する社会の課題に対処する重要な手段となっています。その身近なようで意外と知られていないボランティアの歴史や日本における独自性、活動に参加する理由や意義について一緒に考えてみませんか。

第4回 11/21(金)

18:30~20:00

申込期限: 10/31(金)必着



人間社会学部
人間社会学科
講師

久保 博雅

静岡の言語景観

—身近な看板から始まる言語学—

看板、のぼり、お店のポップ…私達の身の回りには様々な言語表示が溢れています。よく見てみると、中には複数の言語で書かれたものや、地元の方言を使ったものが存在します。何気なく目にするこれらの表示ですが、実はここからその表示の効果やその表示を取り巻く社会を分析することができます。「看板研究」始めませんか？

第5回 12/4(木)

18:30~20:00

申込期限: 11/13(木)必着



短期大学部
現代コミュニケーション学科
教授

栗山 恵都子

空気を味わう？家庭内の
微粒子の話

—家庭内空気の“見えざる”実態—

私たちが毎日吸っている空気の中には、目に見えない微粒子がたくさん含まれています。ほこり、花粉、カビ、PM2.5…それらはどこから来て、どう動き、私たちの体にどんな影響を与えるのでしょうか？家庭内の空気環境と健康の関係について、わかりやすくお話しします。



第6回 12/18(木)

18:30~20:00

申込期限: 11/27(木)必着



人間社会学部
コミュニティ福祉学科
教授

金田 健司

幕末から明治黎明期にかけて
の近代化と学校教育

—何が明治維新を成功に導いたのか？
意外にも高かった庶民の教育水準—

この講座では、幕末から明治黎明期にかけてのオピニオンリーダーであった福沢諭吉をはじめとする人物伝や、戦後民主主義教育が盲目的に非難してきた「五箇条の御誓文」や「教育勅語」の先進性や価値を改めて解説させていただきます。

学生に尋ねると、誰も「五箇条の御誓文」も「教育勅語」も知らない。しかし、知らないにしても、興味を持っている学生が非常にたくさんあります。特に「教育勅語」は、英訳、独訳、仏訳も出ており、海外にも知られています。故アデナウアー西独首相も感動したという、先人・先達が護ってきたこの国の未来を再考するためにも、じっくり、読んでみませんか？